

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	白石町立白石小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自ら考え、交流を通じて課題を解決する実践を重ねてきた。その成果は意識調査やCRTの結果にも表れている。次年度は、「教える」から「引き出す」指導に転換し、すべての児童が「わかる」「できる」授業を目指す。そのためにも、教師自身が単元構成の重要性を問い続け、一人ひとりの理解を深め、学びやすい環境を整える。 ・多様なニーズに対応した個別支援の充実や共に学び合える環境づくりに取り組んできたが、さらなる改善が求められる。次年度は、児童が安心して学べるよう、適切な手立てを講じるとともに、周囲の理解を深める取り組みを進める。また、教職員の専門性向上を図り、支援の質を高めることで、より充実した教育環境を整えていく。 ・年3回の避難訓練を意図的・計画的に実施し、職員・児童の危機対応力を高めることができた。しかし、有事の際、保護者・地域とともに組織的な対応ができているとは言えない。次年度は、中学校と連携を図り、危機管理の徹底を図っていく。
2 学校教育目標	心豊かに創造性を発揮し、たくましく生きる子どもの育成 ～「子どもを真ん中」にした学校づくりで 幸せいっぱい～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで人と関わる子どもの育成（自分から挨拶・協働学習） ・助け合い・協力できる子どもの育成（互いの違いを尊重・励まし助け合う） ・立ち直る逞しさをもつ子どもの育成（まずやってみる・トライ&エラー）

4 重点取組内容・成果指標+B15:L22 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)		評価	意見や提言
				達成度	実施結果		
●学力の向上	○校内研究の充実	○「友達に分かるように自分の考えを話している。」と回答する児童83%以上。 ○「友達の考えを参考にして自分の考えをもち、子どもが自己選択できる時間を取り、子どもが自己選択できる時間を設ける。」と回答する児童83%以上。	・話し合い活動に必然性を持たせ、話し合いことの良さを実感させる。 ・子どもが意欲的に活動できる手立てを取り、子どもが自己選択できる時間を設ける。	B	・「友達に分かるように自分の考えを話しているか」「友達の考えを参考にして自分の考えをもちることができる。」と回答できなかった児童は、1回目78.2%から2回目82.8%へ増加した。来年度は更に深い学びへつなげるための手立てを充実させていきたい。	A	・本校の児童には、自己を肯定的に捉え、意欲的に活動に取り組む姿が見られる。これは、個々の現状の確に把握し、粘り強く指導にあたる教師の熱意が児童に届いている結果と考える。今後は、話し合いの質を児童自身がより実感できるよう、振り返りの手法工夫するとともに、誰もが安心して発言できる授業づくりを継続する必要がある。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校アンケートにて、道徳の授業で自分の考えをもったり、友達の交流の中で考えを深めたりすることができた児童が80%以上	・ふれあい道徳を実施し、全学級で授業を公開する。 ・授業後、ワークシートに振り返りや感想を書かせ、学級通信等で保護者に知らせる。	A	・授業参観で全学級道徳の授業を公開し、通信などで保護者に授業の様子を伝えることができた。その結果、学校アンケートで「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」に肯定的な回答児童が96%、「子どもの実態に応じた道徳教育を行っている」に肯定的な回答保護者が98%だった。今後もふれあい道徳を実施し、児童の豊かな心を育てていきたい。	A	・道徳的心の育前には、家庭での価値観や接し方が大きな影響を与える。学校での学びを家庭と共有し、共に道徳教育を進めていくことが重要である。今後も「ふれあい道徳」を継続し、地域人材の活用や実体験を取り入れた学習を充実させることで、児童が家庭生活の中で豊かに心を通わせる力の育成に努める必要がある。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等)のための取組、事業(対策等)について組織的対応ができていると回答した教員が80%以上 ○いじめ等の対応や指導を適切に行っていると答える保護者が80%以上	○毎月「心のフォーラム」を実施する。 ・気になる児童については、毎週水曜日の職員連絡会で共通理解し、対応策を協議する。	・毎月「心のフォーラム」を実施する。 ・人権集会(教室)を計画的に実施する。 ・気になる児童については、毎週水曜日の職員連絡会で共通理解し、対応策を協議する。	A	・「心のフォーラム」「先生あいのね」を活用し、全児童と担任が個別対応する時間を確保した。様々な取組を伝えることで、「学校は、いじめ等の対応や指導を適切に行っている」に肯定的な回答保護者が93%だった。一方、困りごとや不安があるときにあまり相談できなかった児童が21%のため、今後更にいつでも相談しやすい雰囲気や環境作りを努めたい。	B
●心の教育	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	○QOUテストにおいて ・認められたり、協力・応援されたりする経験があると回答した児童生徒80%以上 ・将来の夢や目標をもってがんばっていると肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・各種体験活動では、活動の見直しもたせ、一人一人が主体的に活動できるようにする。学びのふり返りを行い、児童の頑張りを称賛する。 ・自分の目標や将来の夢について考える機会を学年に応じて授業の中に設定する。	A	・学校評価アンケートで、「先生が良いところを認めてくれて、に肯定的な回答児童が93%だった。」「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答児童が86%であった。 ・全校で取り組んだあいさつ運動や150周年を祝う会などの学校行事で児童が主体的に活躍する場も多く、全職員で称賛することができた。 ・スポーツ教室や外部講師と関わる場を設けた。将来の夢や目標をもっている児童が多数であり、今後とも、将来の夢について考えたりする取組を続けていきたい。	A	・日々の振り返りを通じて児童の努力や成長を認め、自己肯定感を高める指導が定着している。今後は、学年の発達段階に応じて夢や目標を描く機会を意図的に設けることで、より具体的かつ現実的な展望を持っている児童を育成していく必要がある。「十人十色」とい言葉の通り、一人ひとりの異なる個性を尊重し、その可能性を最大限に伸ばす教育活動を継続して推進してほしい。
	●「望ましい生活習慣の形成」	○各学年の目標達成時間までに寝る児童70%以上 ○朝食をとる児童90%以上 ○1日1回歯磨きをする児童80%以上	・9月と1月に「はなまるすこやかチェック」を実施し、1週間、就寝時刻、朝ごはん、歯みがき、ゲームの時間等について振り返らせる。 ・自分の生活を見直したうえで自分なりの目標を立てさせる。 ・歯科衛生士と協力してブラッシング指導を行う。 ・便り等で保護者に知らせる。協力をお願いする。	A	・生活習慣に関するチェックを学期に1回1週間実施することで、自分の生活を振り返り、主体的に健康な生活を送ろうとする意識が高まった。チェック週間後の振り返りや保護者からの一言で意識を取り組まれている様子が見られた。1月のチェック期間の事前指導として、録画、メディア使用に関する保健指導を行っている。朝食を毎日食べる児童96%、毎日歯磨きができていると回答した児童93%、1日3回歯磨きができたと回答した児童95%だった。今後も望ましい生活習慣の大切さを意識づけて行きたい。	A	・望ましい生活習慣の形成に向けた働きかけが、音楽に成果を結んでいる。特に、自身の生活を振り返り目標の目標を設定する取り組みは、児童の健康意識を高める上で極めて有意義な実践となっている。家庭と学校が協働に連携し、歩調を合わせて進められていることに感謝するとともに、今後もこの良好な協力体制を継続して欲しい。
	○児童の体調管理の習慣化	○外遊びの際に帽子をかぶる児童が90%以上 ○適切な水分補給ができる児童が90%以上	・天気の状態に応じて外遊びもしくは室内遊びをすすめて、熱中症対策を徹底する。 ・自分の体調管理を意識するような学級指導を行い、帽子着用や水分補給の習慣をつける。	・「外で遊ぶ際には、帽子をかぶっている。」「自分の調子を整えながら、水分補給ができている。」「肯定的な回答児童が90%であった。この結果から、学級や学校全体で、児童の体調管理の習慣化を実現できたことと認められる。来年度以降も、外遊びの際の帽子着用、適切な水分補給の大切さを指導を継続したい。	A	・「外で遊ぶ際には、帽子をかぶっている。」「自分の調子を整えながら、水分補給ができている。」「肯定的な回答児童が90%であった。この結果から、学級や学校全体で、児童の体調管理の習慣化を実現できたことと認められる。来年度以降も、外遊びの際の帽子着用、適切な水分補給の大切さを指導を継続したい。	A
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・職員の時間外自発勤務の時間の平均が、月45時間以内になるよう「勤務管理システム」を活用したタイムマネジメントを随時、奨励する。 ・「発着物・調査物等デジタル化したり、会議を精選しゴール(めあて・終了時刻)を明示したりして、業務削減を目指す。 ・毎週金曜日を定時退勤推進日とし、掲示板に掲げたり、個別に声掛けをしたりする。	B	・4月から1月までの職員の年間平均の時間外自発勤務は22時間で、目標は達成している。しかし、一番勤務時間が多かった10月(46・30)については来年度の業務内容を見直す必要がある。来年度も、勤務管理システムを効果的に活用しながら、積極的に声掛けを続けていく。 ・令和7年の年次休暇の年間取得日数目標に達成した職員は36.3(4)人。一方、5日にどまった職員は5人。ワークライフバランスを取らせるため、特に長期休業時のまとまった取得を推奨していく。	B	・数値目標を明確にした、実効性の高い取り組みとなっている。今後は、業務の見える化と削減、管理職の率先行動により、働き方改革の定着を図ることが、業務効率化につながることを。このまま、1月の時間外自発勤務45時間を超えないように、勤務管理システムの効果的な活用を継続に尽力してもらいたい。
	○学校組織、教職員集団としての働きやすい雰囲気づくり	○管理職への「報告・連絡・相談」を通して、未然防止と初期対応ができおり、働きやすいと答える職員が80%以上	・職員が、様々な問題を一人で抱えこまないように些細なことも随時紙媒体(メモ)で管理職に報告する。管理職は状況に応じたチームを作り対応をする。	・放課後の時間などを利用して、学級運営で困っていることや気になることを情報交換することができた。 ・管理職への報告・連絡・相談体制が確立しており、安心して働くことができる。」「に肯定的な回答職員が100%となった。今後も職員とのコミュニケーションを大事にしながら職場の信頼関係を深めていきたい。	A	・放課後の時間などを利用して、学級運営で困っていることや気になることを情報交換することができた。 ・管理職への報告・連絡・相談体制が確立しており、安心して働くことができる。」「に肯定的な回答職員が100%となった。今後も職員とのコミュニケーションを大事にしながら職場の信頼関係を深めていきたい。	A
●特別支援教育の充実	○インクルーシブ教育の推進 ○ユニバーサルデザインの推進	○インクルーシブ教育についての知見を深め、個に応じた指導を意図して授業を実践できる職員が80%以上 ○ユニバーサルデザインについて知り、学校共通の取り組みを行う職員が100%	・授業の工夫、個別支援等の具体的な支援方法について連絡会等で紹介したり、外部講師を招聘したりして啓発を図る。 ・環境面の配慮や授業内容の改善等について共通実践事項を決め、職員会議等において定期的に確認する。	A	・「インクルーシブ教育の実践活用」に肯定的な回答職員は97%、「ユニバーサルデザインの実践活用」に肯定的な回答職員は100%であった。校内研究でもUDを取り入れた研究を進めていることが相乗効果になっていると思われる。 ・個別支援についての理解や方法については、職員研修の引き続き行い、指導力向上をめざしたい。	A	・障害の有無や国籍、言語、家庭環境といった多様な背景を持つ子供たちが、同じ場で共に学び、互いの個性を尊重し合う姿は、本校が目指す教育の理想的な姿である。こうした日々の実践が、将来、誰もが自分らしく社会に貢献できる「共生社会」の実現につながるものと確信している。今後も、多様性を豊かに捉え、共に高め合える教育環境の充実にも努めてほしい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)		評価	意見や提言
				達成度	実施結果		
○危機管理・安全教育	○職員・児童の危機対応力の育成 ○防災教育の推進	○「学校は防災や不審者侵入などの対策ができています。」と答えた保護者が90%以上	・年3回の避難訓練を実施し、職員・児童の危機対応力を高める。 ・月1回の安全点検を確実に実行し、問題点は必ず対応する。	A	・「学校は、防災教育・避難訓練が適切に行われている」に肯定的な回答保護者は100%であった。さらに安全意識を高めるため、訓練日伝えずに訓練を行った。外部講師と連携した避難訓練を行ったりしながら学校の危機対応力を高めていきたい。	A	・危機管理および安全教育への組織的な取り組みは、成果を上げている。防災・防犯は児童の命に直結する最優先課題であり、日常的な危機意識の保持が不可欠である。今後定期的な訓練を積み重ね、いかなる状況下でも的確に判断し行動できる「危機対応力」を、教職員・児童共にさらに高めてほしい。

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…員共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育</p> <p>【知】着々と進めてきた「主体的・対話的な学びあい」の成果が少しずつ認められてきている。今後、個別学習と協働学習で得た個々の考えをどのように深い学びへ導くのかを更に充実させていきたい。</p> <p>【徳・体】情操教育、いじめ対応、キャリア教育、児童の健康管理等における成果は、家庭・地域との連携が大きな推進力となった。次年度も、地域と連携した体験活動を継続深化させ、実生活に根ざした豊かな心と健やかな体の育成を一層推進する。また、学校が児童にとって安心できる居場所になるよう、児童のSOSに対し、素早く、丁寧に、納得のいく対応を根気強く行っていきたい。</p> <p>【働き方】時間外勤務の目標値達成、教職員の協力体制に対する肯定的な回答は、安定した職場環境につながっている。子どもたちのために質の高い教育活動を行うためにも、教職員が健康で笑顔であることが必須であることを忘れず、今後も業務改善をすすめ、互いに悩みや課題を分かち合える相談体制の充実を図ってきたい。</p>
----------------	--